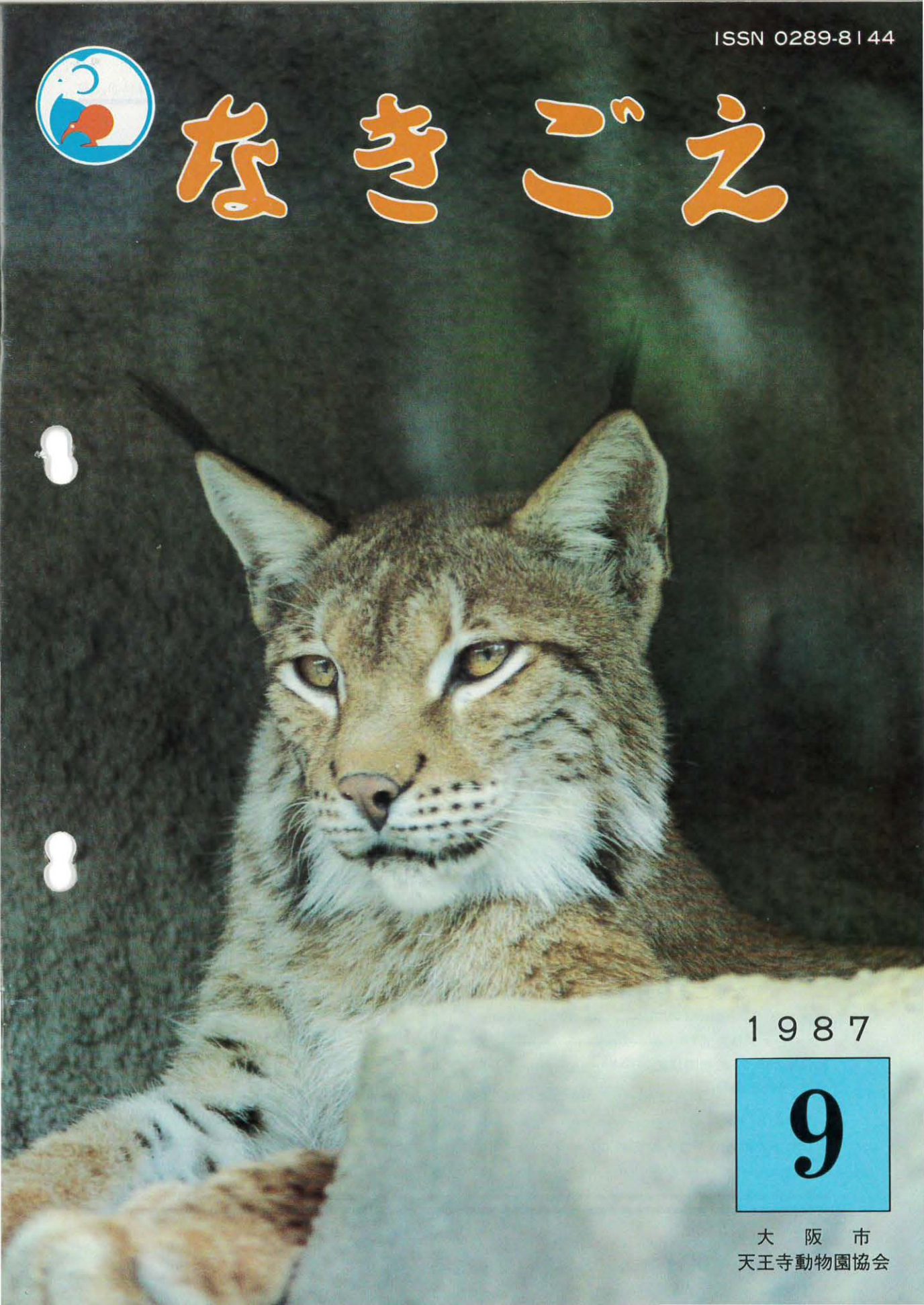
ISSN 0289-8144

なきごえ



1987

9

大　阪　市
天王寺動物園協会

動物と私

—誰もやっていない研究—

坂　本　吉　正

『天が下に新しき物なし』といわれますが、本当に誰もやっていない研究などあるだろうか、と考えることがあります。やっぱり、世界中から見て全くユニークな研究などというものは天才の世界なのでしょう。

我々が、『よし、これはいける、これ、これ』と考えて、文献を繰ってみますと、大抵、唾が付けてあるか、先例があるかです。或は、研究をするのに、何かのあい路があるかです。しかし、他人がやっているからといって、値打ちがないわけではありません。それはそれで、何かの新しい事実を付け加えるからです。といって、ユニークな研究に比べれば大分価値は劣ります。

長年、赤ちゃんの神経発達に興味を持っていましたので、霊長類の神経発達は、どうなっているだろうかと思いました。それにしても、誰しも考えそうな事なのに、どうして報告がないのだろうか、とも思ったのです。

そこで、大阪市大へ赴任したのを機会にこれをやってみたら、と思いました。動物と人間の神経発達が、比較できたら、面白いな、と単純に考えたわけです。そこで、大学の山岸先生の紹介状をもって幾つかの動物園に『霊長類の赤ん坊が生れたら見せていただけませんか』とお願いに回ったものです。

単純に、と書きましたが、始めは全く単純に、お願いすればすぐにでもできるように思っていました。ところが、話はそれほど単純ではありません。行く先々、決まって『そりゃ、先生、無理ですよ』という返事です。

第一に、霊長類の子供など、そう、滅多やたらと生まれるものではない、ということ。むしろ、生まれるのが珍しいぐらいだ、ということも知りました。これでは、十年位は気長に待つより仕方がないなあ、と腹に決めたものです。

次に、『これが一番大事なことですが』、とゴリラの赤ん坊が生まれたことをきいて、京都動物園に駆け付けた私の顔を、じっと見て係の人は気の毒そうに言いました。『赤ん坊の神経発達を見たいとおっしゃるのですが、親は子供を絶対に手離しませんよ。まあ、折角御出になったのだから、オリの外からでも見て帰ってください』と案内されたものの、体重200kgの親が、胸をドンドン叩いてドラミングをし、歯をむき出しての威嚇に震え上がりました。昭和の始め、父に連れられていったキング・コングの映画そっくりです。五歳の時は後で毎晩夜泣きをし、両親を困らせました。今度は夜泣きこそしなかったものの、我ながら、良いアイデアだと、風船玉のように膨らませた研究のプランは、ペシャンコに潰れ、『誰もやってない研究というものは、何らかのあい路があるんだなあ』ということを知りました。

その後、京都動物園のゴリラと、天王寺動物園のオランウータンの赤ん坊は、それぞれ事情によって親と分離されたのを機会に、短時間ではありましたが動物園側の御好意によって観察出来、貴重なデーターを得ることができました。有難いことです。

それにしても、誰でも出来そうなのにやられてない研究は、出来ない理由があるのだ。それを不断の準備（多くの人の好意も含めて）と、時期を待つという忍耐が、可能にするのだ、という教訓を得ました。持ち前の気長な性格からかも知れませんが、機会を待って、考え考え、データーを積んでいきたいと思っています。

（大阪市立大学教授）

なきごえ９月号もくじ

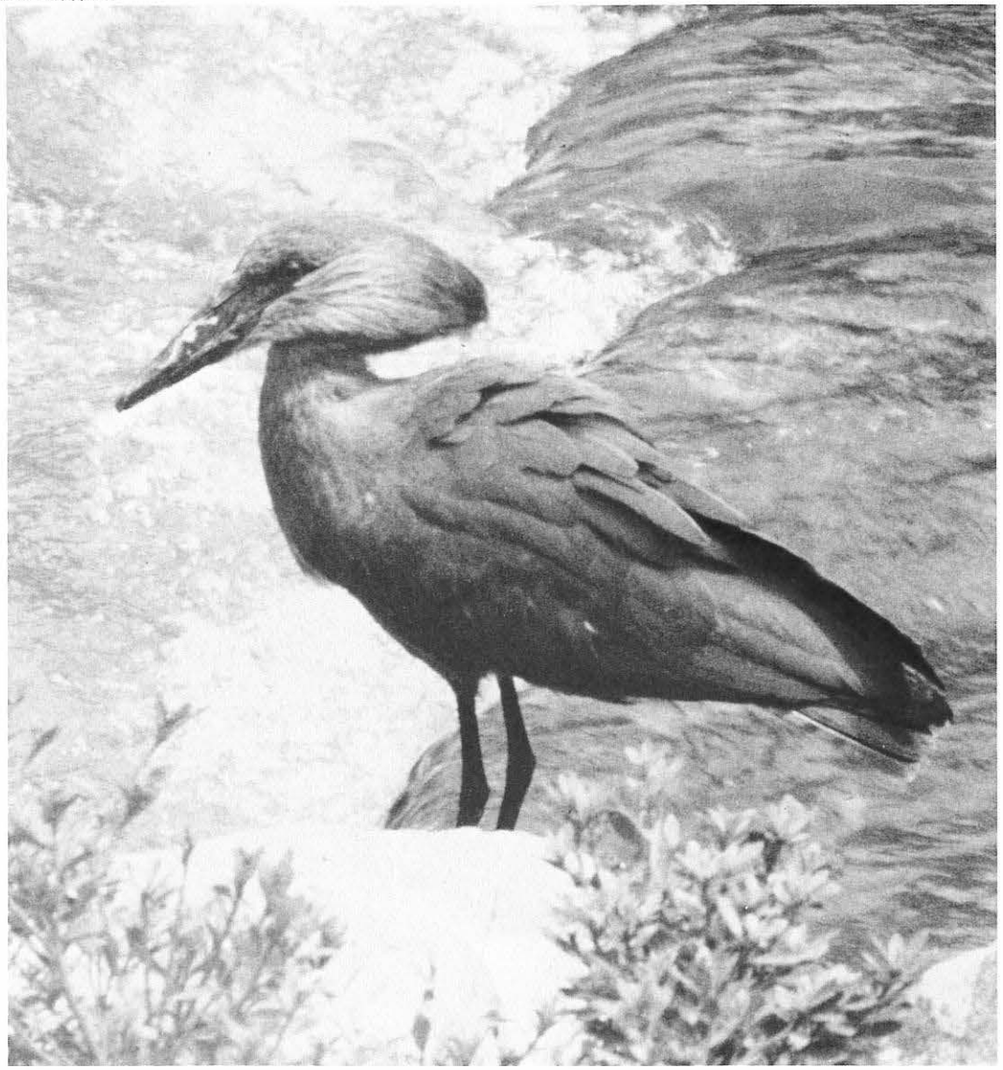
動物と私 …… 2
“シュモクドリ入園” …… 3
動物園グラフ・動物園日記 …… 4・5
金龍・金馬と動物国宝展 …… 6・7
—阿西省出土文物—
インド紀行（下） …… 8・9
ケンちゃんの好きやねん動物園 ⑤ …… 10
動物園ニュース …… 11

表紙の写真説明

“オオヤマネコ” ***(Lynx lynx)***

かつては北米からアジア北部、ヨーロッパと広く分布していましたが、今では激減し、限られた場所にしか見られないそうです。立派なアゴヒゲと耳にある黒い房毛が印象的です。

（撮影：堀　　弘）



“シュモクドリ入園”

７月24日、上野動物園のご好意でシュモクドリ３羽が入園しました。英名で金槌頭、和名で撞木鳥と呼ばれるその由来は奇妙な形の頭です。もう滝の近くで巣作りを始めています。

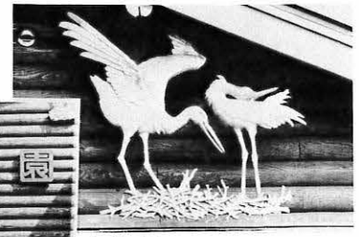
（撮影：樽本　　勲）

動物園グラフ

大バードケージ「鳥の楽園」

8月1日オープン!!

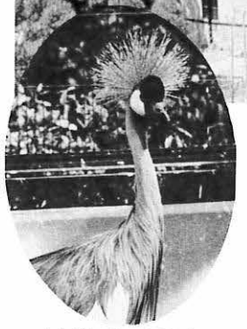
天王寺博覧会に向けて、建設中だったバードケージが完成しました。面積3167㎡、収容鳥類64種300羽。広いケージには川が流れ、滝があり、中央には大きな池もあります。池にはカモが浮かび、上空をシュバシコウやカモメ達が乱舞しています。（撮影：野口　秀高）



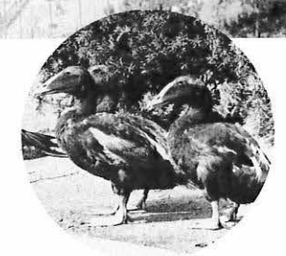
レリーフ
ディスプレイするシュバシコウ

レリーフ
カナダガン（左）・オシドリ

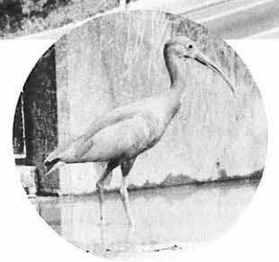
全景



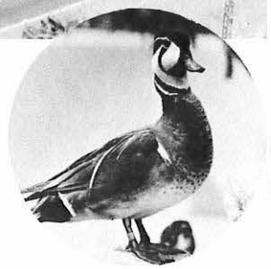
ホオジロカンムリヅル



ホンケワタガモ



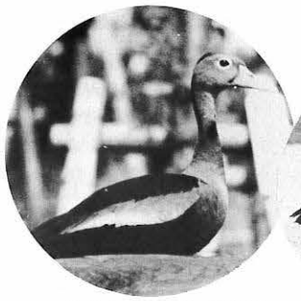
ショウジョウトキ



トモエガモ

7・8月の動物園日記

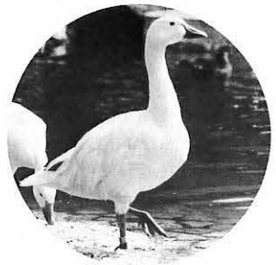
7／5．ヒョウが2頭生まれました。
　　ボランティアー・サマースクール研修会が開かれました。
7／6．ヒョウの授乳が確認できないため、人工哺育に切り換えました。
　　レアが本年10卵目を産みました。
7／7．ハクビシンのメスが出産間近のため、別室に隔離しました。
7／8．保護により元気を回復したハシボソガラス3羽とゴイサギ2羽を放鳥しました。
　　ヤブツカツクリの産卵行動を確認するため、飼育舎に監視モニターを設置しました。
7／9．モズのヒナを1羽保護しました。
　　ワライカワセミの内視鏡による性別鑑定を行ないました。
7／10．今年生まれのカリフォルニアアシカ3頭の体重測定を行ないました。
7／11．ニホンジカが1頭生まれました。
7／12．ボランティアー・サマースクール研修会が行なわれました。
7／16．ハクビシンが1頭生まれました。
7／17．水禽放養舎の鳥をバードケージ〝鳥の楽園〟に移動させました。
7／18．バードケージ〝鳥の楽園〟で展示予定の鳥類が入園したので、さっそく検疫を行ないました。
7／19．第27回動物のお話とスライドの会「動物園のグルメたち」が開催されました。
7／20．昨年生まれのエランドのオス“二郎”と、今年生まれのシベリヤオオカミ4頭が出園しました。また、新たにカピバラが入園しました。
7／21．第13回サマースクールが始まりました。
7／23．キーウィの木製人工巣を洗浄し日光消毒を行ないました。
7／24．シュモクドリ3羽が上野動物園より寄贈されました。
7／25．新しい動物名ラベル146枚と動物説明ラベル9枚の取り付けを行ないました。
7／26．サマースクールが終了しました。
　　カピバラの検疫が終了したので、カピバラ舎で展示を開始しました。
7／28．バーバリシープにオスの子1頭が生まれました。
　　富山県高岡古城動物園にオシドリのオス2羽を寄贈しました。
7／29．ソ連科学アカデミーのイゴール・フォーキン博士他2名が来園されました。
7／30．レアが交尾しました。
8／1．天王寺博覧会が開幕、バードケージ〝鳥の楽園〟がオープンしました。



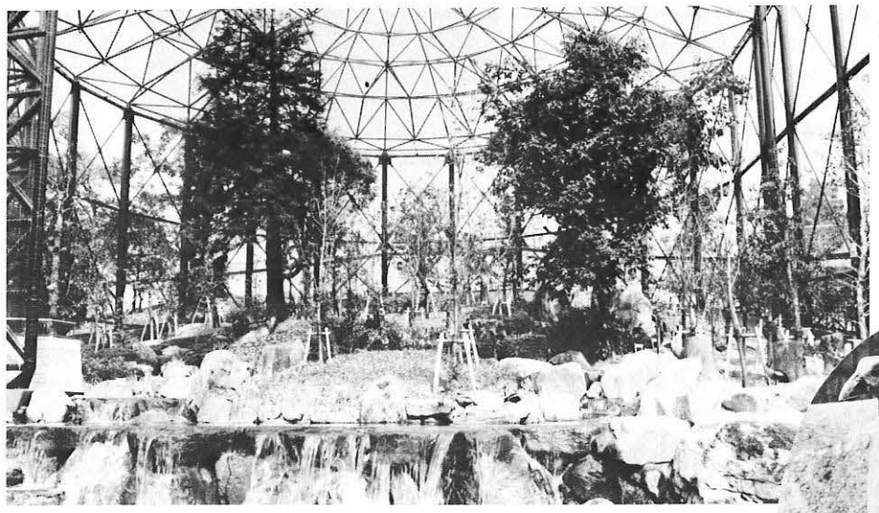
アカハシリュウキュウガモ

カオジロガン

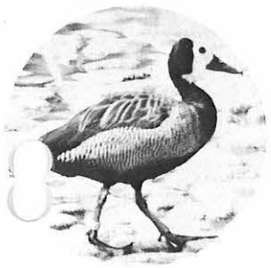
アカハシハジロ



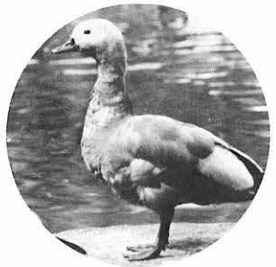
ハクガン



雄大な滝

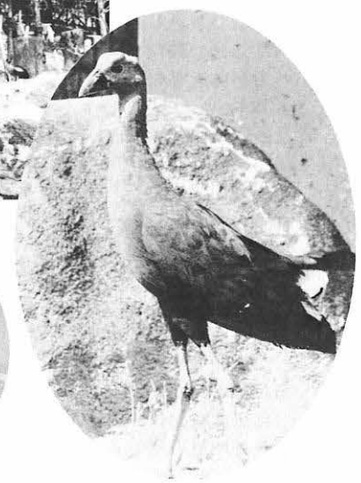


シロガオリュウキュウガモ



アカツクシガモ

ツクシガモ



セイケイ

金龍・金馬と動物国宝展 ― 陝西省出土文物 ―

守屋雅史

ヒトと動物達との関わりは、人類発生以来今日まで連綿と続いてきました。ある時は食糧として狩猟や漁撈の対象となったり、また輸送や使役そして戦いの道具となったり、さらには無二の親友となったりしました。一方、天変地異などの自然界の変動に対して、ヒトは特定の動物を神として崇拝したり、悪霊として畏怖したり、自分達の部族の象徴としたり、さらには、様々な動物の部分を組み合せて一つの空想上の動物に仕立てて隈れ敬ってきました。

今年の夏から秋（8/7～10/4）にかけて、天王寺博覧会が開催されていますが、大阪市立美術館もその一会場として、日本文化の源流の一つである中国にスポットをあて、かの地での人間と動物との関わりを歴史的に跡づけた展覧会を開催しています。この展覧会の展示品は、中国陝西省文物事業管理局の協力を得て、陝西省の博物館・文化館・文物管理所など、15の機関から出品されています。

陝西地方は、中国史上早くから発展した地域の一つで、西周・秦・前漢新・西晋・前趙・前秦・後秦・西魏・北周・隋・唐などの歴代の王朝が都を築いた所です。したがって、地上や地下に残存する優れた文物が非常に豊富で、今回展示されている文物も大半は近年発掘されているものの中から選ばれた名品です。

展覧会は、殷（商）時代〈紀元前1600年～紀元前1028年〉から元時代〈1271年～1368年〉までの青銅器・金銀器・玉器・陶磁器など総数125点（精巧な複製品５点を含む）から構成され、中国の国宝クラスの文物も25点が出品されています。展示品は、動物表現を主題とした文物ばかりで、動物をかたどった作品や動物を文様装飾に用いた器物からなっています。それらの動物表現は、大きく二つに区分することが可能です。

①想像上の動物達

自然は時として人智を越えた力を発します。原始以来、地震・旱魃・大雨洪水・雷・山火事などの自然の力に対して人々は神の力と隈れ敬ってきました。そして、目に見えない自然の神々を崇拝の対象として偶像化するにあたって、人々は現実の動物をそのモデルとしたり、多くの動物の部分を組み合せて、一つの奇怪な造型物を作り出しました。中国でよく知られているものには、殷周時代に青銅器の文様として多用された饕餮や夔龍、四神とか四霊とか呼ばれている青龍・白虎・朱雀・玄武、邪悪なものを追い払う辟邪、墓を守護する鎮墓獣、時や方位を司る十二支、そして龍と鳳凰などがあります。

これらの想像上の動物を表現した文物は、今回の展示品の中にもたくさんありますが、その白眉は展覧会のタイトルにもなっている金龍、すなわち唐時代〈618～907年〉に製作された青銅鍍金の龍でしょう。

青銅鍍金　龍　唐時代（618年～907年）

この龍は、鉄芯を青銅でつつみ鍍金をほどこしたものです。尾・背びれ・二つの雲気をもち、全身をＳ字形に曲げて、前足は地をつかみ、後足を天にはねあげています。頭には三叉の角とたてがみをはやし、顔にはあごひげ・ほおひげをもち、口をあけ歯をむきだし、舌を巻きあげ、鼻孔を拡げて、両眼をかっと見開いています。人々を威怖させるに充分な上半身の迫力と、天より舞い降りる、あるいは天に舞い昇るかのような下半身の軽妙な躍動感を兼備しています。

龍の起源はかなり古く、殷墟から出土した卜辞のなかでも、龍の字のある甲骨は非常に多くあり、殷の人々が崇拝した多くの神のなかでも重要なものの一つでした。殷周時代の青銅器の文様に表わされたものをはじめとして龍の形態は非常に多くのバラエティーがありました。それは、龍が様々な動物の部分を取り込み、組み合せて成立した想像上の動物だからです。現在の龍と似た形態におちつくのは唐時代以降のことで、それは蛇を主体に獣の四脚、馬の頭、鼠の尾、鹿の角、犬の爪、魚の鱗とひげなどを組み合せたものと考えられています。

中国では、龍は水雨を司る神聖な霊獣とされますが、歴代の封建皇帝の象徴ともなり、さらには中華民族の象徴として「東方の巨龍」と称されるようになりました。また、福を招く吉祥を示す霊として様々な物に描かれ、龍門石窟・龍脳香などのように地名や品物の名称にも多用されました。このような龍の造型と思想は周辺諸国にもひろがり、日本にも多くの影響を与えました。

②実在の動物達

中国の人々は、実在する動物の表現を主題とした文物もたくさん製作しました。これらの動物は、人々の狩猟や飼育の対象であったり、また害獣であったり、生活の中で比較的よく目にする動物を選んでいます。これらの動物表現は、新石器時代の土器の形態や文様などに現われますが、器物を美しく飾ったり、あるいはもっと多くの獲物を得たいとの願望を託したり、あるいは崇拝している部族の象徴（トーテム神）であったりしました。これらは、野生の動物と飼育された動物とに分かれますが、獅子のように外国から輸入され、仏教の影響を受けて辟邪や

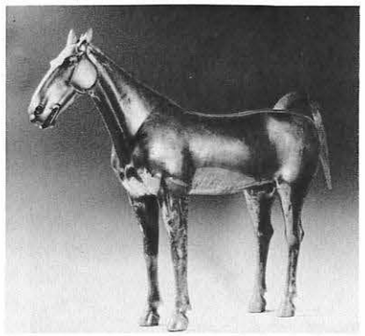
霊獣の性格をもつようになったものもあります。

展示品のなかで野生の動物を表現したものには、西周時代〈紀元前1027年～紀元前771〉の青銅の象尊、戦国時代〈紀元前475年～紀元前221年〉の銀の牡鹿・虎、漢時代〈紀元前206年～紀元後220年〉の玉製熊、北周時代〈557年～580年〉の石製獅子などが、特に目を引く作品です。

石　獅子　北周時代（557年～580年）

中国では、新石器時代にはすでに豚・犬・牛などが飼育されていました。六畜（馬・牛・羊・犬・豚・鶏）という文字も殷時代にはすでに存在しています。飼育された動物を表現した文物では、新石器時代に犬や豚の造型物があり、殷周時代には牛と羊の造型物が多く存在しています。殷周時代には神への供物として牛や羊を多く用いたので、祖先を祭る宗廟の祭器としての青銅器にも、その造型物が多かったのでしょう。漢時代になると農業生産も著しく発展し、牧畜も盛んになって、六畜をはじめとした飼育された動物を表現した文物もふえてきました。

今回の展示品にも飼育された動物を表現したものは数多く出品されていますが、なかでもタイトルになっている金馬、すなわち漢時代の青銅鍍金の馬は特筆されます。



青銅鍍金　馬　前漢時代（B.C.206年～A.D.8年）

この馬は、漢の武帝の陵墓、茂陵付近の陪葬墓から出土したもので、臀部にはその時の傷痕もあります。頭を持ち上げ、少し口を開いて６本の歯をのぞかせ、耳の間と首の上にはたてがみが刻まれています。尾の睾嚢は別鋳ですが、身体は中空で尾の下の小さな穴が肛門であると同時に鋳造時の通気孔にもなっています。この馬は、漢時代に馬を鑑別するために大宛の馬を標準モデルとして作られたものと考えられています。天馬を意識したものか、いささか理想的すぎる、概念的な造型物ですが、脚・胸・臀部などの肉づきなども均整がとれ、解剖学的にも当を得た写実的作品といえます。生き生きとした躍動感には欠けますが、その静的な姿態は武帝が張騫に命じてもとめた西域の汗血馬を彷彿とさせます。

馬の造型は陝西省眉県李村出土の西周時代の青銅馬など殷周時代にも少数ありますが、秦漢時代と隋唐時代には馬の飼育が興隆し、それに伴ってこの時代には馬の造型も大量に作られました。秦始皇帝陵の兵馬俑坑や咸陽市楊家湾から出土したたくさんの軍馬は、秦漢時代に北方匈奴の侵入を防ぐ軍事的必要性と戦時における軍馬の重要性を反映しています。また、李貞墓・永泰公主墓・鄭仁泰墓出土の騎馬俑は、軍事的必要性のほかに、隋唐時代には貴族などの上流社会に乗馬の風習が広まったことを物語っています。また、唐時代には馬に舞踊を調教することがおこなわれました。展示品中の銀鍍金舞馬銜杯文壺に表現された杯をくわえた馬も、皇帝の誕生日などにこれを祝賀するために舞馬が杯をくわえて酒をささげる姿を表わしていると考えられています。

銀鍍金　舞馬銜杯文壺（杯をくわえた踊り馬の装飾がある壺）唐時代

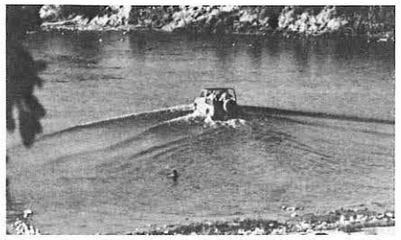
金龍・金馬と動物国宝展に展示されている歴代の動物表現を主題とした文物を通観しますと、その姿態や顔つきから細部に至るまでの表現には、省略とディフォルメはありながらも、中国の人々の的確な観察力と創造力を知ることができます。そして、製作にあたっての工人達の細やかな慈しみを感じることもできるでしょう。殷周、戦国、秦漢、隋唐、宋元へと時代が変化してゆくのにともない、その造型も呪術的存在から現実的存在へと、概念的表現から写実的表現へと移り変ってゆきます。それは、それぞれの時代のもつ歴史的文化史的変化とも密接にかかわって、動物を含めた自然界と人間との調和した生活のあり方の変化を示しています。この展覧会が、現代に生きる私達の自然と関わりあった生活のあり方を考える一つの手がかりとなれば幸いです。

（大阪市立美術館　学芸員）

インド紀行（下）

私達が象の群れを見ているすぐ前をラムガンガ河が流れています。ロッヂとカンダ山の間は10km程で、見渡す限り草原であり、河はその中を幾筋にも分かれて流れています。５月といえばまだ乾季であり水量も少なく、４人のフランス人が河遊びをしていました。

ジープ（ちなみにこのジープはスズキのジムニーであり、インド名ではジプシーと呼ばれ街でもよく見かけました。）に乗った監視員が、４人の間をすりぬけて対岸へとむかい、対岸の草原では８頭の象が草を食べています。仔象が２頭。



ラムガンガ河を渡るジプシー

これが自然な姿であり、私が生まれるずっと前もジープはなくても象はきっと草を食べ木の枝を折り続けていたでしょうし、10年後にここに来てもきっと仔象はウロウロしていることでしょう。

しかし、私には目の前の風景がどうも理解できませんでした。頭ではインドのカーベル国立公園内のロッヂから見える自然なんだとわかっているのですが、どうも納得できません。象は動物園にいて、野生の動物はテレビの中にいるものなのだ……。

これは至極直感的というか感性の問題なのでしょうが自分の感受性の限界を知ったような気がしました。

● カーベル国立公園・夜

インドは楽しい。自然は多いし、食べ物だって悪くありません。物価は安いし人々は素朴です。しかし何が一番かと聞かれたら、カーベルの夜景と言えるでしょう。私は香港も函館も見ました。でも、それは100万ドルの価値しかありません。今なら円高の影響で、その倍といったところでしょう。

ロッヂのレストランで12ルピー（約150円）の夕食をとっていますと事務所のおじさんが来て、８時から裏で映画をするから見に来いと言ってくれました。他にする事もないので見に行くことにしました。

インド人はやたらと映画が好きなようで、皆が楽しそうに見ていました。内容はトラの保護に関したものでしたが、私が小学生の頃にテレビで見たのと同じ様に思えました。つまらない映画と下手な漫才ほど私の苦手なものはなく５分もすると目が疲れてきて、そのまま仰向けに寝ころんで目を閉じてしまいました。

目を開けた時、どこにこれだけの星があるのかという程の星が輝いていて、３分に１度は流れ星が流れます。この流れ方がインド独特の動きをするのですが説明しにくく長くなるので、ここでは省かせていただきます。

夜景とは、電気で造られたものも確かにそれなりに美しいのですが、星だけで造った方がもっと美しいものです。

さすがに標高386ｍ、インドとはいえ夜の冷え込みは厳しくベッドの上で丸くなり、あの暑い昼が恋しくなってきました。まったく勝手なものです。

● エレファント・ライド ～河へ～

カーベル国立公園の朝は早く、５時には皆が起きて外をウロウロしています。きっと健康のため早起きをしているのではなく、涼しいうちに働らかないと、すぐにあの暑さがやって来て何もできなくなってしまうから早起きするのだと勝手に解釈していましたが、きっといい線をついていると思っています。

私達は、公園内を象に乗って見てまわることにしました。私達３人とインド人夫婦それに象使いを乗せて象は午前6時にロッヂを出発しました。

エレファント・ライド

私たちの乗った象はまだ若い象でした。その朝は７頭の象がそれぞれのルートで森の中や河の方へと出かけて行きましたが、その中でも一番小さいのが我々の象でした。

象の背中に乗るのは結構難しいものです。平らな道を歩いていても揺れるのに、林の中ではもちろん道などなく、そのうえ坂を登ったり下だったり河を渡ったり、おまけに林の中ではゾウは急旋回を繰り返してくれるのです。ボヤボヤしていると振り落とされそうになるし、木の枝のムチが飛んでくるのです。

それでも動物を見るのは象に乗るに限ります。ジープとは違ってどこにでも行けるし高い所から見るので視界が広く、それに動物達も象に乗っているせいか、さほど警戒せずにいてくれます。

見通しの良い草原は動物達の水飲み場となっていて、象やトラの足跡や鹿・カメに出会いました。

前日の夕方、象の群れがいた所は広い面積に渡って草が短く食べられ、木の枝も折られ、ダイナミックな食痕が見られました。

象のエサ場

草原の中に３本、取って付けたような木にはアカゲザルが不思議そうにこっちを見ていました。

木の上ではカンムリワシが遠くを見ています。私達が横を通っても一向にお構まいなしでした。

河のむこうで親子の象がいました。私達は河を渡ってすぐ目の前で野生の象を見る幸運を得ました。

鳥はやたらと目につきます。河の中に入っていくと象の足元に水族館でおなじみの魚達が集まってくるし象に乗っている限り、公園内の自然は居心地のいいものです。少なくとも象の背中よりはいいものです。

しかし、慣れてくると象の背中もそう悪くはありません。この文中に出てくる動物の写真は象の背中で、揺れながら撮ったものですが、結構きれいに撮れています。私の腕前もたいしたものではあると自画自讃。

象の親子

カンムリワシ

ラムガンガ河周辺をまわって２時間10分の旅が終わりとなりました。

● カーベル国立公園・昼

日本では何時から何時までを昼というのか？必要もないので考えたこともありませんが、ここの昼は９時頃から始まって４時過ぎまで続きます。その間、私は早く時間が流れるようにベッドの上で祈り続けるか、シャワーを浴びて過ごします。食事はなま温かいマンゴーを半分。

みなさんも是非経験すべきです。

● エレファント・ライド ～林へ～

日本では感じたこともなかったのですが、時間というのは正確に動くものです。ゆっくりと時間と暑さをのせてなま温かい風が淀んでいます。めでたい国なのです。

また象に乗りました。２度目ともなると落着いたものです。何しろ私は揺れる象の背中でうどんだって食べられる位の自信はあります。この象は朝のゾウと比べると相当高齢で、きっとベテランの域に達している象なのでしょう。この象の頭に直径15cmぐらいの傷が左右対象に２ケ所ありました。フックで殴られた後なのでしょう。

夕方は林の方へと進んで行きました。10分もすると何故あんな傷がついたのかすぐにわかりました。この象は背中に私達が乗ってることなど全然気にせず、林の中に入ると５ｍに１回は確実に方向転換をし私達の頭に枝をプレゼントしてくれたのでした。その度に象使いは象の頭にフックをプレゼントしていました。

インドトサカゲリ

林の中に何ケ所かの木の上に作られた観察所があり、小さな水飲み場を使って動物達が集まってくるようにしていました。

途中そのうちの１つにフランス人を迎えに行きました。彼は８時頃から９時間も観察を続けていたようでした。私ならとても出来ません。野生動物の観察は勇気と忍耐のいるものだと思いました。だから私は象に連れていってもらうしかありません。

林を出ると草原になります。ロッヂまで一本道がついていますが象に乗って40分もかかりました。

草原の中にとり残されたような木が７本だけあります。近づくとアカゲザルの群がいました。少なくとも20頭はいました。こんな所で生活しているのかと感心するしかありません。草原にはアキシスジカの群れがいました。インコが群れをなして林の方へと飛んでいきました。ハヌマンラングールが木のまたに腰かけてこちらを見ていました。なんのことはない、動物園でも見ることのできる動物がひょっこりと顔を出し、なんだ、こんな所で棲んでたのかと感心するだけの事なのです。

アオショウビン

インドでは、何度も感心しました。

● 余話として……

インド人はとにかく動物を知りません。公園の管理人はキリンを見たこともないし、公園で知りあったケラータ州の電気屋さんはインド中の公園や動物園をまわっているのですが、パンダはWWFのバッジでしか見た事がないしコアラを知りませんでした。

動物を知らないというより知る方法がないのです。彼らでこの程度だから田舎のおばさんなどペンギンを見たら何て思うでしょう。

日本では様々なメディアを通して大抵の動物は見ることが出来ます。そして頭では充分に理解できるのです。インドでは大抵の動物は見ることが出来ないのですが田舎のおばさんはラングールや象を神として崇拝しています。毎朝・夕には香をたいて彼らに祈りをささげています。私達にとっては長鼻目や霊長目の動物なのですが、インドのおばさんには全く別の生き物に見えているのでしょう。

私は象の背中に揺られながらインドの田舎のおばさんの事を考えていました。少しは何かがわかったような気がしました。

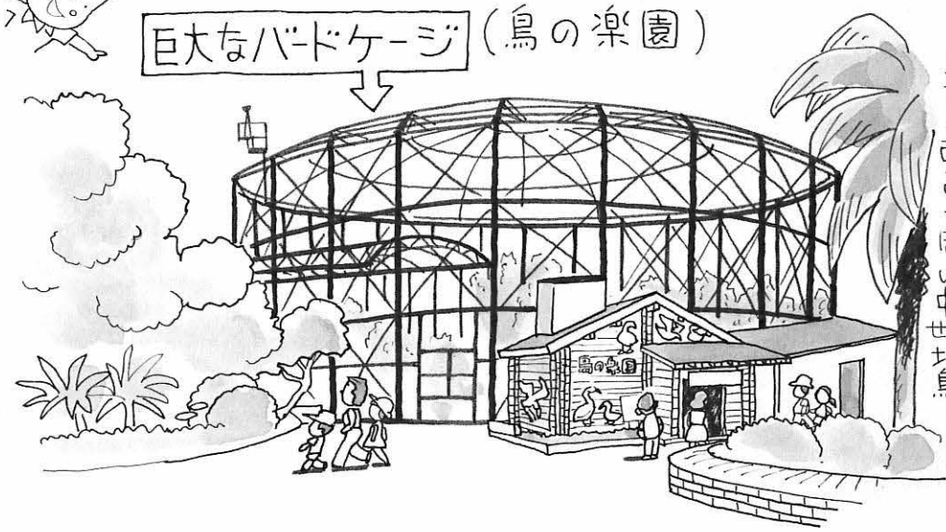
最後に旅行に際してお世話になりました京都大学霊長類研究所の後藤氏、そして職場の方々にこの場を借りてお礼を申しあげます。

（飼育課：早 川　　篤）

ケンちゃんの好きやねん動物園⑤

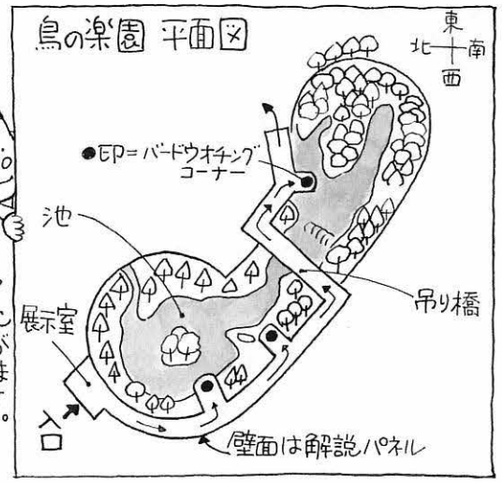
まんが・松葉 健

巨大なバードケージ（鳥の楽園）

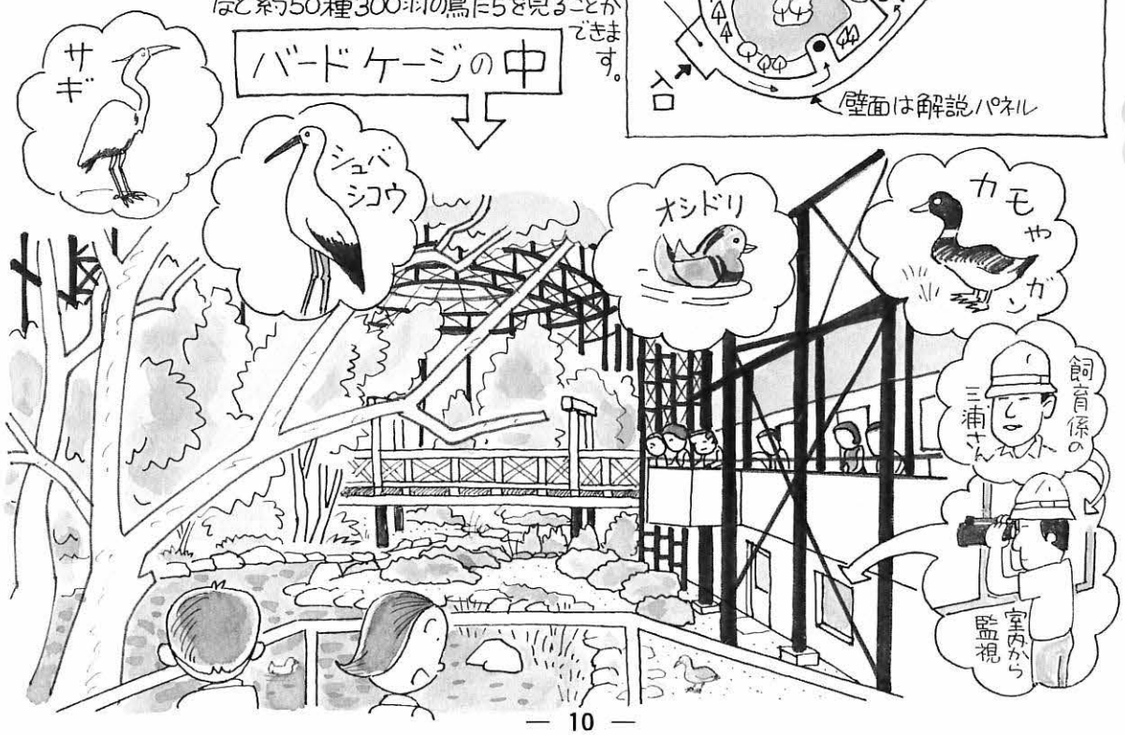


ことしの6月に竣工したこのバードケージは面積が3,170㎡高さが20㎜です。近くでみるとほんとに大きくて広い感じがします。中は泉や岩にせせらぎ、森林、湿地、池があって鳥たちは自然の中へかえったみたいにゆったり泳いだり翔んだりうれしそうにしていました。

夏休みに親せきの花子ちゃんと天王寺博へいきました。マンモスの大きな骨格を見たり、氷河時代のシベリヤの動物や、美術館では中国で出土した金竜、金馬も見ました。どれもビックリするほど古いものでしたが、動物園のバードケージは生きた鳥たちの楽園なのでボクも花子ちゃんも大よろこびでした。いままでとちがうのはオリの外から見るのではなくオリの中から観察できることです。中には、バードウォチングコーナーがあってよく見えます。そして、せせらぎの上は吊り橋になっていて山の雰囲気です。ここではシュバシコウやサギの仲間、カモやガンなど約50種300羽の鳥たちを見ることができます。



バードケージの中



動物園ニュース

§ 「鳥の楽園」オープン

天王寺博覧会にむけて、本年１月から建設が進められていた通り抜け形式のバードケージ「鳥の楽園」が６月末に完成し、博覧会の開幕に合わせ８月１日にオープンしました。

総工費５億1,000万円、総面積3,170㎡で、直径40mと27mの円形のドームをつなぐような形状で長さは102mあり高さも20m（最高部）あります。２階部分の通路から、自由に飛びかう鳥を直接見ることができます。また、入口には展示コーナーを設け、野生のシュバシコウの生態をパネルやジオラマによる剝製展示、ビデオなどで紹介しています。

一般公開に先立つ７月17日、シュバシコウなど184羽の鳥を捕獲し「鳥の楽園」に移しました。また、翌18日にはホンケワタガモやミコアイサなどのガンカモ類24種54羽も新たに来園し、さらに24日には上野動物園のご好意でシュモクドリ３羽が来園。「鳥の楽園」の展示鳥類は64種298羽になりました。

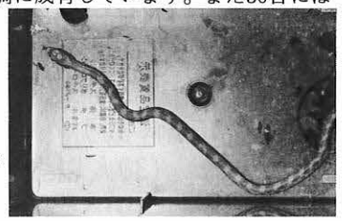
§ ヒョウの人工哺育

７月５日、ヒョウの赤ちゃんが２頭（オス、メス）生まれました。

両親は昨年３月に幼獣で来園したもので、今回が初めての繁殖でした。初産のためか哺乳をしなかったため７日から人工哺育に切り替えました。残念ながらオスは肺炎で死亡しましたが、残るメスは順調に成育しています。

§ クロネズミヘビのふ化

７月26日、クロネズミヘビ（アルビノ）が２頭ふ化しました。残念なことに１頭は死亡しましたが残る１頭はふ化後４日目には初めて餌のハツカネズミの子供を食べ順調に成育しています。また30日には３頭目がふ化しました。



アルビノのため全身がピンクで、うすく白い模様があります。当園では久しぶりのヘビ類のふ化であり、また日本の動物園では初めてのふ化と思われますので、大切に育てたいと思っています。

§ サマースクール開講

恒例の動物園サマースクールが７月21日から26日まで開催されました。今年は天王寺博覧会を控えていたため、規模を縮小し実施しました。連日の暑さにもかかわらず、各組２日ずつ、３組で合計136人の子供たちが、ヒツジの毛刈りや動物の餌作りなどの実習などを通じて、楽しく動物の学習をしました。

§ 天王寺博開幕

８月１日、動物園を含む天王寺公園一帯で行なわれる天王寺博覧会が「いのちいきいき」をテーマに開幕しました。25haの会場には13のパビリオンが建設され、テーマ館では翼竜が飛ぶシーンが巨大な画面に写し出され、マンモス館ではシベリアで出土したミイラ化した赤ちゃんマンモスやマンモスの全身骨格などが展示されています。

11月８日までの100日間の会期中にいろいろな催物が企画されており、動物園部分では、野外ステージで、ヌイグルミのテンパク君のショウや子供たちのミュージカルなどが連日行なわれています。

§ 園内植物だより

天王寺博覧会を控えて園内整備工事の一環として花壇整備が行なわれ、夜行性動物舎南側など３ケ所に新設されました。また既設の花壇の整備も行なわれ、美しく生まれ変わった花壇にはサルビアやベゴニア、マリーゴールドなど15種19,600株の草花が植えつけられ、天王寺博覧会で動物園を訪れた人々を楽しませています。10月にはまた秋の花に植え替えられます。

◎お知らせ

動物のお話とスライドの会

９月20日(日)　ホッキョクグマのお話

10月18日(日)　新しい鳥の楽園の水鳥たち

11月15日(日)　家畜のお話

時間：午後１時～２時

於　：北園レクチャールーム

なお、天王寺博覧会の開催期間中の日曜祝日には動物映画会を開催します。

現在の飼育動物数

（1987年７月31日現在）

哺乳類	13	目	105	種	442	点
鳥類	20	目	182	種	601	点
爬虫類	3	目	34	種	70	点
計	36	目	324	種	1132	点

＊天王寺博覧会開催＊

８月１日から11月８日までの天王寺博覧会開催中動物園は休園致しません。なお、動物園部分の開園時間は９時30分から５時までです。入園料は大人2,000円、シルバー1,600円、中人1,200円、小人800円となっております。

ゆとり満喫、信頼のカード。

ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード〈キップス〉kips

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでのご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店　お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ
●アベノ店7階●上本町店10階●東大阪店本館●奈良店4階●西京都店1階（京都ファミリー）

いま、フィルムは頭脳をもった。

高画質時代をリードする
はるかに美しく
フジカラー SUPER HR

カメラの大林
桜橋本店　☎341—8091
三番街店　☎372—5031

DEAR LIFE BOOKS

生態・飼育・図鑑が一つの本の中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？　動物園での世話の仕方は？　仲間は？　など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

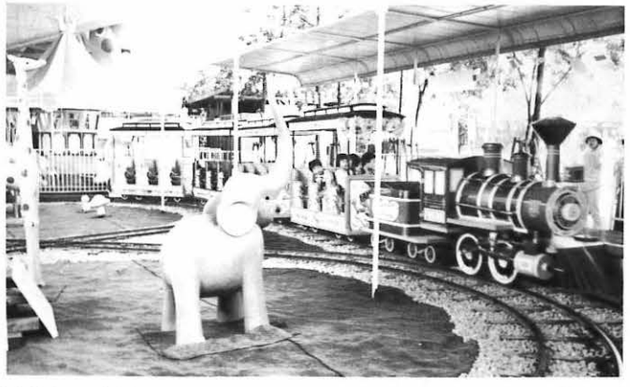
くらしとかいかたシリーズ〈既刊本〉
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むし くらしとかいかた
野山でみかける身近な昆虫たち250種を紹介。

ちいさないきもの くらしとかいかた
昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。　ひかりのくに株式会社　本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしい〝のりもの〟が待っています。



1人1回
100円
（1才まで無料）

団体割引
（30人以上）
……1割引

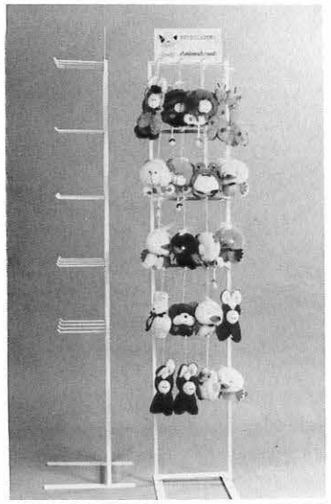
久竹娯楽株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所（南園入口横、北園ステージ横、北園高架下）に各種〝のりもの〟があります。

●貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
❶巻・20分（10本常備）
●対　　象/保育園、幼稚園、小学校の先生
●貸出期間/10日間
●貸 出 料/無料（但し、郵送料450円は必要）
●申 込 先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

動物観察の手引に！
天王寺動物園
ガイドブック
のご購読をおすすめします。
（1冊￥450）園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会
〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

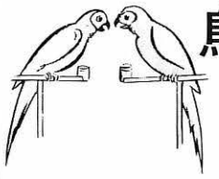


動物ぬいぐるみは
子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

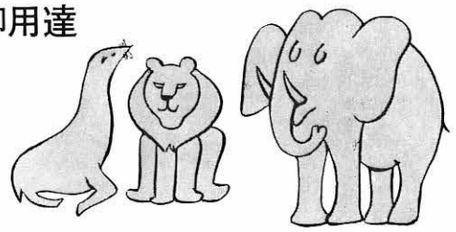
有限会社 **アニメランド**

〒547 大阪市平野区西脇４丁目５番22号
TEL：(06)704－８５８０
FAX：(06)704－８５６５



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

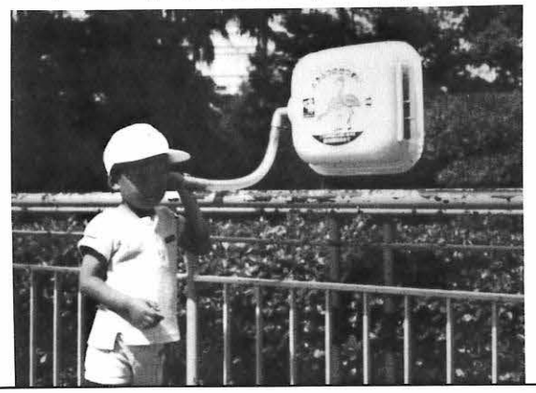


- 医学実験用動物
- 宣伝用、テレビ用、貸動物
- 原色世界雑類図鑑（34種1枚もの）要郵便券250円

有限会社 **吉 川 商 会**

本　社　神戸市中央区中山手通３丁目11番４号　電話(078)221-8195(代)
飼育場　兵庫県小野市来住町１５１３番地

たのしい〝動物のお話〟は、
ガイドマシン（動物説明機）で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回　20円

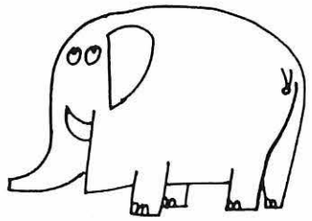
動物園内での
お食事、ご休憩は

大阪市天王寺動物園内

中 央 売 店

☎ (06) ７７１－０９７３

天王寺動物園内

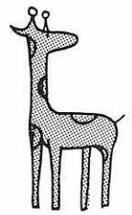


南 園 売 店

代表者 松 谷 良 子

大阪市天王寺区茶臼山町６－74
電話 (06) ７７１－７１１０番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますのでご説明に伺いました際は、よろしくお願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
ＴＥＬ 06－856－7444

もっと おいしく もっと 元気に！‥‥雪印

果肉とソフトヨーグルトの名コンビ

雪印ヨグール 130g・250g

おなじみの果肉入りヨーグルト
新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。
ホワイトを基調にしたシンプルなデザインで、ヨグールのさわやかさにも
ピッタリです。

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に"WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー"が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。

なきごえ　昭和62年9月10日発行（毎月1回10日発行）第23巻　第9号　（通巻265号）

編　集／大阪市天王寺動物園
発行人／大阪市天王寺動物園協会　中川道朗
印刷所／株式会社 松村善進堂　定価100円(送料共)　1年継続(12部) 1,100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6—74
電話　大阪 (06) 771—0201
振替口座　大阪 37823

編集委員（土井良彦／伊東重朗／藤野勝吉／樽本　勲／中川哲男／斉田　尚／宮下　実／長瀬健二郎／榊原安昭
森本委利／大野尊信／野口秀高／早川　篤／薮野幸司／堀　弘／大川光雄／新出悦央／土谷正道）